平成３０年２月２１日作成

平成２９年度　学校関係者評価書

玉幡小学校　学校関係者評価委員会

○　学校関係者評価委員会の経過

１　日　時　　平成３０年２月８日（木）　午後３時３０分～５時００分

２　出席者　　学校評議員　　鈴木澄雄　　伊藤陽子

　　ＰＴＡ代表　　河野昭彦　細田由紀　松沼貴子（３名とも副会長）

　　学校側　　望月和彦(校長)　　河野瑞穂(教頭)

３　内容

①学校より，教職員の自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果と達成状況，今後の改善策の説明

②意見交換

③自己評価書の改善策について

４　学校関係者評価の結果

◆自己評価書の項目ごとの分析と改善策について

１　全体評価について	妥当である
２　項目ごとの評価結果	
Ⅰ学校教育目標に関して・学校経営について	妥当である
Ⅱ学校運営について	妥当である
Ⅲ学習指導について	妥当である
Ⅳ生徒指導について	妥当である
Ⅴ地域との連携について	妥当である
３まとめと課題について	妥当である

５　意見，感想等

○教職員の自己評価結果全般について

・児童のアンケートの肯定的評価は，全体的に市全体の評価より数値が高い。

・教職員間の相互理解や信頼関係が良好であることに安心した。教職員は，児童の個性をよく理解してくれているとも感じている。

・教職員への信頼度は，子どもたちはとても高いが，保護者は子どもに比較するとやや低くもっと学校を信頼してもよいと思う。

・危機管理マニュアルは全ての職員がよく理解しておいてほしい。

・学校生活，授業が楽しくない，仲の良い友達がいないと不安に思っている少数の児童が心配される。このような子どもたちへは，全教職員から積極的に声かけをするなど，きちんと取り組んで欲しい。

○子どもの学習について

・宿題の量は適切だと思う。自主学習としてどんなことをしたらよいか，迷っている子どももいるのではないか。学校で具体的に自主学習のやり方や内容などを示してほしい。一方で，親が子へ学習をうながす声かけをもっとしていきたい。

・家庭では，ゲームやスマホ，テレビなど学習に集中できない要因があふれている。

・家庭での読書時間が短い。家庭では，親子が一緒に読める本を探したり，学校では，読み聞かせボランティアを募ったりして，読書活動を積極的に進めたい。

・家庭的に恵まれない子どもの中には，家庭で学習を充実させることができにくいため，学力が低い子もいるのではないか。学力の低い子ども達を何とかしてあげたい。

→本校には，国，県の基準に基づき，また市が学校の実情に合わせて配置した支援員が３人（うち半日勤務が１人）きめ細かな指導を担当する教員が１人，アクティブ加配が１人いる。これらの人員が，授業中学習に遅れがちな児童に個別に寄り添い，学習支援をしている。また，２クラスを３クラスに分け授業を行うなど支援体制を工夫しながら，基礎的基本的な内容の定着に努めている。支援はまだ

十分でなく，教員が足りない。加配の増員を願い出ている。
・意欲が喚起され、質問や発言が活発に出る授業は難しいのだろうか。これからも授業づくりに力を入れてもらいたい。
・地域によって子どもの実情はずいぶんと相違がある。東京にいる外孫は，月２回土曜授業があり，また孫を含めたほとんどの子ども達が塾に行っている。学校から交通機関を使って自分で塾へ行くような生活をしている。しかしその生活に順応しているようだ。

〇地域の行事への子どもの参加について
・自治会長として地区のＰＴＡ役員（支部長など）に聞きながら，子ども向けの行事が重ならないように日程調整をしてから行事の計画を立てている。しかし，スポ少や習い事で子どもも忙しく参加が少ない。育成会の活動資金のための有価物回収への参加も減っている。今は，回収場所がたくさんあるため有価物自体が出されなくなっている。地域住民の生活スタイルが変化している。
・仲新居区では，子どもを対象に土曜教室のようなものを試みた。学習や将棋などの遊びを教えられるよう元教員などを集め，指導者として確保した。しかし，子どもの参加が減少してしまい廃止となった。
・地域の行事は，夏祭りやカーブミラーの清掃とその後のお楽しみ会，６年生を送る会，ドッチボール大会などたくさんある。参加者が少ないのは，催し物の情報が家庭に伝わっていないのでないか。回覧板を回しても見ていないのではないか。
・地区によって，行事によって，家庭の考えによって，行事への子どもの参加の仕方は変わってくる。保護者の考えが大きく影響する。
→学校としては，育成会や地区での行事の情報収集をし，集約，一覧表にして，子ども達に提示する。そして参加を促すといったことはできる。
・防災訓練への子どもの参加は，家庭の考えによるところが多い。毎年参加する児童は少なく，また参加児童の顔ぶれは毎年同じである。
・県内には，防災訓練のあるときは学校でも地域でも行事等は一切なくし，地域ぐるみで訓練に参加している地域もある。
・田舎の方が徹底して地域ぐるみの訓練をしているのではないか。

〇チーム「たまはた」について
・外部から学校を応援し，支えてくれる人たちを増やしたい。どんな活動をしてもらっているのか。
→習字の指導や組み立て体操の指導をお願いしたり，環境整備や，プールでの監視をお願いしたりしてきた。子ども達の安全で安心な学習環境を守るためにも大変役立っている。
・学校が人員を全戸に募っても，思ったより人が集まらないこともある。
→仲新居区は，１０００戸，６５歳以上の方が４５０人いるが，７０歳以下の人はほぼ就労している。ボランティアを引き受けづらい状況がある。仕事以外の時間であれば，個人的な要請には応じられる。ただ，個別の調整は難しい。参加しやすい体制をつくりたい。

〇その他
・東京の小学校では，卒業した中学生が運動会の運営に関わっていた。競技の準備や補助もしていて，大変驚き感動した。
→小中連携の先進的な取り組みとして参考になる。連携強化を進めていきたい。
・自己評価は甲斐市全体で統一的に行われている。自己評価からわかる学校のよさや課題を近隣の学校と情報交換しながら，学校改善に生かせるとよい。
・学校評議員として教育委員さんや地域の方々と学校について話し合う機会が欲しい。学校評議員としての役割をしっかり果たしたいと思う。
→学校評議員の来校の機会を増やし，学校の状況や児童の様子についてより理解を深めていただけるよう改善をしていく。学校評議会の機能の活性化を図れるよう学校として努めていきたい。

記載責任者（玉幡小学校　学校関係者評価委員）　　大柴岳人　　印